

なぜ勉強するのか

茗溪塾塾長 長谷 誠基

今号より教務便り巻頭言を書かせていただきます、長谷と申します。よろしくお願ひします。

さて、2月から影響が出始めたコロナウィルスですが、現在でも感染者数は増え続けており、警戒が必要な状況です。出来るだけ早い収束を願うばかりですが、この初期対応をめぐってはとても考えさせられることが多かったと思います。

まず、休校要請への対応。塾の授業や学童の運営をどうするのか？を最初に突きつけられました。全国に先んじて休校要請を発表した自治体の教室では、早速その発表があった夕方から、「翌日の預け先がないので朝から子どもを預かってもらえないか？」という問い合わせを複数いただいたのです。しかし逆にこうした声があったことで、感染予防に配慮しながら何とか運営していこうということになりました。では、どういう形で運営するのか？ということですが、茗溪塾は少人数クラスの集団指導という形態をとっていたこともあり、①感染症対策を徹底した上で運営する。②不特定な出入りがある自習室は当面の間閉鎖する。③日曜学習ルームも時間を短縮した上で必要最小限の開校にとどめる。という決定をすることがスムーズにできました。その後すぐに全国での休校要請に変わり、すべての校舎で同じ対応をとることにしました。何とか春期講習までやりきれたのも、保護者の皆様のご理解とご協力があればこそです。本当にありがとうございました。

コロナについては3月に入ってから非常に動きが速く、休日の外出自粛要請や、さまざまな対策の話題が出ています。最初の頃は自治体ごとに異なる要請が出されることも多く、それについて批判めいたコメントをしているメディアなどもありました。しかし、今回のものは人類が経験したことのないようなもので、対応の教科書があるわけではありません。それぞれが試行錯誤しながらいろいろな対策を考え実施してきたのだと思います。これは本当に答えのない問いを突きつけられて、それに必死に答えを探している状態なのだと思います。

この答えのない問いについて考える力をつけることこそ、勉強する意味なのではないかということです。勉強で様々なことを学ぶことによって、自分の中に基準ができ、その基準に基づいて、一番大切なことを優先しながら判断していく力を養っていくこと。塾生ノートのはじめの特集にある「未来計画年表」や「一年後の自分」、「ミッションステートメント」は自分の原則を創る一步になると思います。是非やってみて下さい。そして4月、状況は刻々と変わっており、様々な対応をしながらではありますが、こんなときだからこそ勉強する意味を考えさせる良い機会だと思います。